

交通政策審議会陸上交通分科会鉄道部会
東京圏における今後の都市鉄道のあり方に関する小委員会（第19回）
議事概要

1. 日時：平成28年3月15日（火）9：30～12：00
2. 場所：国土交通省（中央合同庁舎2号館）共用会議室3A・3B
3. 出席委員（敬称略）：家田仁、伊藤香織、岩倉成志、加藤浩徳、岸井隆幸、竹内健蔵、富井規雄、羽藤英二、村木美貴、屋井鉄雄、山内弘隆
4. 委員からの主な意見：
 - （1）提案のあったプロジェクト等について（その2）
 - ・各プロジェクト等の推進に当たっては、まちづくりとの連携が重要である。
 - ・郊外部における高齢化の進展やニュータウンの衰退等に対する対応といった観点も重要である。
 - ・駅は一つの駅のみならず、近接する複数の駅を駅群として捉えることも重要である。
 - ・駅はまちの顔なのだから、駅のプロジェクトについて記述するときは、そのような観点から駅空間の質の向上を図ることも重要である旨の記述を充実させて欲しい。
 - （2）次期答申のスケルトン（案）等について
 - ・東京圏の都市鉄道においてこれまでどのような取組を行ってきたのか、また何が課題になっているのか、答申ではもう少し分かりやすく記述することが重要である。
 - ・駅だけでなく車内についても外国人の利用のしやすさの向上を図ることが重要である。
 - ・シームレス化については相互直通運転が中心に捉えられているが、駅を少し改良するだけでシームレスな移動が可能になる場合があるといった観点も重要である。
 - ・財政が逼迫しているという観点は重要であるので、答申にはしっかりと記述して欲しい。
 - ・答申は国民にとって分かりやすい文言・表現となるよう工夫すべきである。

以上